

Key  
Person



(有)スケルトンコーポレーション 代表取締役

# 中田 正之

特に若手の人材不足が顕著な建設業界において、多くの若手人材を集めている福井県の『スケルトンコーポレーション』。同社の中田社長は人材育成に積極的に取り組んでいる。まだまだ遊びたい盛りの若い人材を扱うのは難しさも伴う。しかし、社長は大切な従業員である彼らと真正面から向き合い、根気よく接することで、働くことの厳しさと同時に楽しさを伝え、元々持つポテンシャルを引き出している。また、それだけでなく働きやすい環境を整えるべく、社員寮も設けた。全ては従業員のために——これからも多くの人材と共に歩みを続けていく。

「建設業界において人材は宝。  
これからも従業員を大切にしていきたい」



代表取締役

## 中田 正之

福井県吉田郡永平寺町出身。学生時代は水泳に熱中し、学業修了後は建設資材会社に就職する。その後も、建設業界で経験を重ね、縁あって5年前に社長職を引き継ぐと、『スケルトンコーポレーション』へ社名変更し、新たなスタートを切った。そこから急成長を遂げ、現在は若手や外国人人材、協力会社人材などを含む100名以上が在籍している。

### COMPANY PROFILE

薦・土木・型枠工事一式請負

## 有限会社 スケルトンコーポレーション

【本社】福井県敦賀市若葉町3丁目1230

URL : <http://skeleton-corp.jp/>

薦・土木工事・仮設足場工事・安全設備リースをはじめとした各種工事を請け負っている『スケルトンコーポレーション』。同社は、新幹線関連工事や公共工事、施設やお店の新築工事など、幅広い施工を手掛け、着実に実績を積み重ねている。そんな同社を率いる中田社長は、人材育成に力を入れており、若手・外国人人材を含む従業員数は、協力会社を合わせ現在、何と100名を超えている。本日は、板東英二氏が社長からお話を伺った。

#### 社会の第一歩は建設業界

縁あって前社長から会社を引き継ぐ

——まずは中田社長の歩みからお聞かせ願えますか。

学業修了後は建設資材を扱う会社に入社し、営業職を経験しました。そちらで10年ほどキャリアを積み、一度の転職を経て、当社に入ったんです。元々、当社とはライバル関係の会社にいましたが、縁があって前社長から誘いを受けた。

——そうして働く中で、前社長から御社を受け継がれたと。

ええ。5年ほど前ですね。その時に社名を現在のものに変更し、26名の従業員も取引先も引き継がせてもらいました。前社長から「受け継いでほしい」と

打診があり、多くの従業員がいましたし、彼らの生活を守りたいという思いで、引き継ぐ意志を固めましたね。

——受け継がれてから、順調に歩めていますか。

ええ。現在は取引先から、薦・土木工事・仮設足場工事・安全設備リースをはじめとした各種工事を請け負っております。中でも、北陸新幹線関連の工事に多く携わらせていただいていますよ。その他にも、発電所などのプラント工事や道路の災害対策工事を含む公共事業、保育所などの施設やお店の新築建築に携わっております。周囲の方々のお陰で順調に仕事量を増やすことができ、それに伴って人材も補充して、現在は100名を超えています。当社には、とび技能士1級や足場の組立て等作業主任者、第二種電気

工事士など、他にも様々な資格を取得している経験豊富な人材も多いです。人材不足な業界において、技術力のある人材が集まってくれているのは本当に嬉しいですね。

——プロフェッショナルが揃っていると。それにしても100名は多いですね。

ええ。従業員たちに現場を任せることができているから、私は経営や営業、人材管理に集中しております。そんな100名を超える人材の中には、若い職人も多数含まれています。この間面接に来てくれたのも17歳でした。当社の上を社員寮にしていますから、県外から住み込みで働くこともできます。仕事や寮生活で様々な職人とふれあう機会がありますので、そういったところで人間性を磨いてほしいですね。時には、手がつけられないくらい、やんちゃな子もいますが、そういう子のほうがむしろ純粋でポテンシャルは高い。根気強く接して、仕事に意欲を見出してもらうことで、急成長を遂げる子もいます。

あと、中国人などの外国人人材も当社では活躍してくれています。4月にはベトナム人も迎える予定です。少し言葉の

# 高い安全性と技術力で—— さらなる高みを従業員と目指す

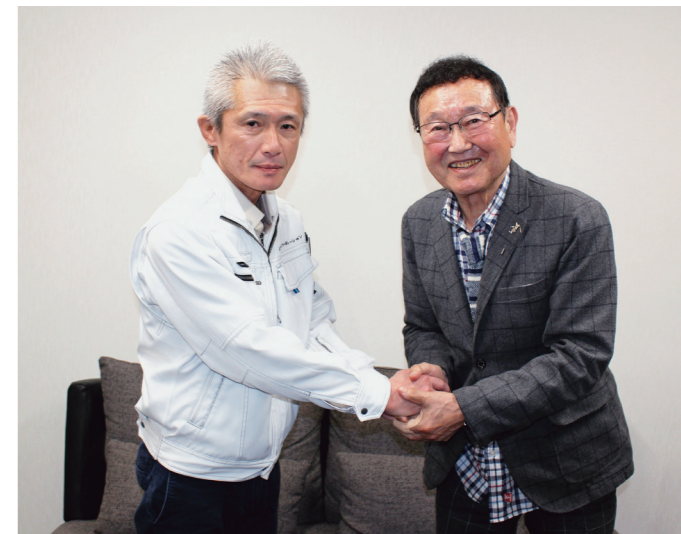
### Column

『スケルトンコーポレーション』には若手人材が揃っている。そんな、若手人材を惹きつけている中田社長の魅力についてここでは触れたい。

ある日の現場の朝礼で、同社の若い従業員がふざけたことがあった。朝礼は一日の基本で何よりも大切な時間だ。社長はその時、強く叱り、その従業員は涙を流したという。

ゆとり・さとり世代と呼ばれる今の若い世代は、人から怒られることに免疫がないと言われている。だから、会社に残ってもらうためにも、叱らない経営者が増えている。しかし、建設業界において、安全は何よりも優先されなければならず、従業員を守るためにも社長は叱った。

その従業員は社長の真意を汲み、それから真面目に努力を重ね、今では同社ナンバーワンの技術力を誇るまでに成長したという。厳しさの中にある本当の優しさ——本気で従業員と向き合っているからこそその行動が取れる社長に、若手人材がついていくのも納得ができる。



壁もありますが、彼らは皆働くことに一生懸命なんです。これからさらにグローバル化の波が押し寄せてくるかと思えますから、外国人人材の強みを生かしていきたいですね。

#### 成長を続け、人材は100名超

様々な人材と共に躍進を目指す

——なるほど。では次に、社長がお仕事をされる上で意識していることを伺います。

安全管理です。大事な従業員にケガをさせるわけにはいきませんし、事故があれば取引先にも迷惑が掛かりますからね。一人ひとりの作業量を増やせば、それだけ人件費を抑えられますが、そこは手間を掛けてでも利益より安全を選ぶべき。ですから、当社では安全ネットや親

綱の設置、安全帯の装着を義務づけています。そうして意識して取り組んできたこともあって、これまで大きな事故を起こしたことはありません。

——それはすごい。社長の試みがしっかりと実を結んでいるわけですね。社長にとって、お仕事を頑張っている原動力は何でしょうか。

引き継いだ以上、当社を守るべくがむしゃらに仕事に邁進してきたまですし、従業員がいてくれたからこそ。だから、私は頑張ってくれている従業員には、給料などでしっかり還元してあげたい。昨年決算情報を従業員に包み隠さず公表し、「このくらいの売上があって、これだけの仕事をしてくれたから、この金額を渡す」という風に伝えました。

——それは従業員さんたちのモチベーション維持につながることでしょね。

最後にこれからの目標をお聞かせ願えますか。

現在も北陸新幹線関連の仕事に携わっておりますが、それを第一歩だと思い、まずそこで実績を積み重ね、取引先の信頼を獲得したいです。そうして、別の新幹線工事やその他の色々な工事当社に任せていただき、当社の規模をさらに大きくしていきたいですね。そのためにも、人材は重要。これからも若手や外国人人材を大切にしていきたいです。

(取材 / 2019年1月)



### After the Interview 板東 英二

「前社長から経営を受け継いだ時の従業員さんの数は26名。人材不足な業界なのに、今は何と100名を超え、若い人材も多いのだとか。協力会社さんも15社に上るそうで、成長ぶりすごいですよね。ライバルが多い業界だと思えますが、勢いある若い人材の力を借りて、是非このまま突っ走ってほしいです。陰ながらではありますが、応援していますよ」